

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月10日

【四半期会計期間】 第150期第3四半期  
(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 名古屋鉄道株式会社

【英訳名】 Nagoya Railroad Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 山本 亜土

【本店の所在の場所】 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号

【電話番号】 052(588)0846番

【事務連絡者氏名】 常務取締役財務部長 内田 互

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座四丁目3番6号(名古屋商工会館内)  
名古屋鉄道株式会社 東京支社

【電話番号】 03(3563)1001番

【事務連絡者氏名】 東京支社長 瀧 修一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第149期 第3四半期 連結累計期間	第150期 第3四半期 連結累計期間	第149期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
営業収益 (百万円)	446,424	437,833	609,836
経常利益 (百万円)	24,181	26,230	28,814
四半期(当期)純利益 (百万円)	10,297	13,047	12,726
四半期包括利益 又は包括利益 (百万円)	9,773	20,835	17,108
純資産額 (百万円)	227,999	253,468	235,589
総資産額 (百万円)	1,108,799	1,122,996	1,102,975
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	11.71	14.84	14.48
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	11.23	13.89	13.88
自己資本比率 (%)	19.0	20.9	19.7

回次	第149期 第3四半期 連結会計期間	第150期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり 四半期純利益 (円)	4.21	8.38

(注) 営業収益には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等の重要なリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行っておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）におけるわが国経済は、円安による輸入品・材料費等の高騰や、消費税増税による影響が懸念されるものの、輸出関連企業を中心とした企業業績の好転や、それに伴う個人消費の一部に持ち直しの動きが見られるなど、景気回復の兆しが見え始めました。

こうした状況下、当社及び当社グループの各事業部門は、積極的な営業活動と経営の合理化に努めた結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は4,378億33百万円（前年同期比1.9%減）、営業利益は275億99百万円（前年同期比3.5%増）、経常利益は262億30百万円（前年同期比8.5%増）、四半期純利益は130億47百万円（前年同期比26.7%増）となりました。

セグメント別の業績概況は、次のとおりであります。

#### 交通事業

鉄軌道事業については、当社では、通勤型車両4000系を順次導入し車両の更新を行ったほか、高架橋柱などの耐震補強、都市計画事業の一環として高架化を進めるなど、安全面の強化に努めました。営業施策面では、名鉄名古屋駅構内において、東海圏では最大規模となる大型モニターによる複数面のデジタルサイネージ（電子看板）を活用した広告展開を開始したほか、常滑線全線開通100周年などの記念イベント開催や、沿線地域と連携した各種企画乗車券を販売するなど、誘客促進に努めました。

バス事業については、名鉄バス(株)では、路線バスの愛知淑徳大学線、高速バスの名古屋 - 宇都宮・郡山線の運行を開始し、新規顧客の獲得に努めたほか、全車両のドライブレコーダーとデジタルタコグラフを、一体型の次世代型安全対策機器に順次更新するなど、安全管理の強化に努めました。

タクシー事業については、スマートフォン用タクシー配車サービス「全国タクシー配車」の導入拡大を進めるなど、サービス向上に努めました。

この結果、交通事業の営業収益は1,199億78百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益は140億65百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

## 運送事業

トラック事業については、輸送契約更改における運賃の見直しや業務・輸送システムの再構築に向けた諸施策を推進し、収益性の向上を図りました。

海運事業については、太平洋フェリー(株)では、昨年4月に開設40周年を迎えた北海道航路(名古屋 - 仙台 - 苫小牧間)にて、「就航40周年キャンペーン」を展開し、旅客の利用促進を図りました。

この結果、運送事業の営業収益は、企業の生産活動改善により貨物輸送量が堅調に推移したことから1,024億27百万円(前年同期比0.2%増)となったものの、営業利益は燃料費などの増加もあり36億79百万円(前年同期比4.8%減)となりました。

## 不動産事業

不動産賃貸業については、当社では、「名古屋クロスコートタワー」やリニューアル工事を進めテナントを誘致した「名鉄バスターミナルビル」が通期で寄与したほか、「名古屋ルーセントタワー」などの賃貸収入も好調に推移しました。

不動産分譲業については、分譲団地「名鉄陽なたの丘 蒼空の街」の販売を引き続き進めました。

しかしながら、分譲マンションの引渡戸数減少や、前年同期に分譲土地の一括販売があったことから、不動産事業の営業収益は446億22百万円(前年同期比26.1%減)、営業利益は42億16百万円(前年同期比26.5%減)となりました。

## レジャー・サービス事業

ホテル業については、(株)名鉄トヨタホテルでは、昨年9月に7階宴会場フロアをリニューアルオープンし、新規顧客の獲得に努めたほか、名鉄イン(株)では、インターネットを利用した拡販を強化するなど、客室稼働率の向上に努めました。

観光施設については、(株)名鉄インプレスでは、「野外民族博物館リトルワールド」にて「トルコ イスタンブールの街」を昨年3月に新規オープンし、施設の魅力向上を図ったほか、(株)夫婦岩パラダイスでは、「二見プラザ」が伊勢神宮式年遷宮の効果による集客増もあり、好調に推移しました。

旅行業については、国内旅行において、首都圏への旅行や式年遷宮行事による伊勢神宮ツアーが好調に推移したものの、海外旅行において、中国・韓国ツアーの冷え込みが依然として続くなど、厳しい状況で推移しました。

この結果、レジャー・サービス事業の営業収益は413億21百万円(前年同期比3.6%増)、営業利益は15億10百万円(前年同期比76.3%増)となりました。

## 流通事業

百貨店業については、(株)名鉄百貨店では、化粧品売場のリニューアルや婦人衣料・婦人雑貨でブランド入替を行うなど、誘客促進に努めたほか、輸入車販売においては、積極的な営業活動により、販売台数が増加しました。

この結果、流通事業の営業収益は1,104億46百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益は14億15百万円(前年同期比18.5%増)となりました。

## その他の事業

その他の事業では、調査測量事業で、前年同期に比べ受注が増加したほか、システム開発案件が好調に推移し、営業収益は509億77百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は23億37百万円（前年同期比54.6%増）となりました。

## (2)財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末においては、総資産が前連結会計年度末に比べ200億21百万円増加しております。これは主として、分譲土地建物が128億57百万円、投資有価証券が保有上場株式の時価上昇により88億8百万円増加したことなどによるものであります。

また、負債の部は前連結会計年度末に比べ21億42百万円増加しております。これは主として、有利子負債が全体で31億42百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ178億78百万円増加しております。これは主として、利益剰余金が105億13百万円、保有する株式の時価上昇などによりその他有価証券評価差額金が58億67百万円増加したことなどによるものであります。

### (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社グループは、公共交通機関としての鉄道事業を中心に、交通、運送、不動産、レジャー、流通等の各事業を通して、長年にわたり地域の生活基盤の一端を担ってきております。

また、これらの事業活動を通して得られたお客様との信頼関係をさらに発展させるべく、平成17年12月には当社グループの目指すべき将来像を明示した「名鉄グループ経営ビジョン」を策定しました。この中で当社グループの使命を「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」と定め、「私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される『信頼のトップブランド』をめざします」とする経営理念を掲げております。

当社では、「名鉄グループ経営ビジョン」に沿った諸施策を着実に実施することが、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものと考えておりますが、これを実現するためには、グループ各社が長期的視点に立って安定的な経営を維持し、かつ、一体となって相乗効果を発揮していくことが必要不可欠であります。

以上の観点から、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、このような当社グループの使命及び経営理念をふまえ、グループ全体の企業価値ひいては株主共同の利益を持続的に確保・向上していくことに十分な理解を有することが必要であると考えております。

近年、顕在化している株式の大量買付けに関しては、それが会社の企業価値の向上ひいては株主共同の利益に資するものであれば、一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買付け提案についての判断は、最終的には個々の株主の皆様のご意思に委ねられるべきものと考えております。

しかしながら、株式の大量買付けの中には、株主の皆様に株式の売却を事実上強要するもの、株主の皆様や当社取締役会が株式の大量買付けの条件等について検討し、意見を形成するための十分な時間や情報を提供しないものの存在も想定されます。また、短期の利益を優先し、当社グループの保有資産を切り売りするなど、当社グループの経営基盤を破壊するもの、当社の公益事業者としての役割や鉄道事業の安全の確保に悪影響を及ぼすものなどの存在も否定できません。

当社では、いわゆる「買収防衛策」を現時点で定めてはおりませんが、株主の皆様から負託を受けた経営者の責務として、このような当社の企業価値を毀損し、ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある株式の大量買付けに対しては、法令・定款に照らし適切な措置を講じてまいります。

なお、買収防衛策の導入については、重要な経営課題の一つとして認識しており、今後も継続して検討を行ってまいります。

### (4)研究開発活動

特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,800,000,000
計	1,800,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	881,584,825	881,584,825	東京証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株 であります。
計	881,584,825	881,584,825		

(注) 提出日現在の発行数には、平成26年2月1日以降の新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

当第3四半期会計期間において発行した新株予約権付社債は、次のとおりであります。

2023年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債	
決議年月日	平成25年9月17日
新株予約権の数(個)	2,500
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株) (注)1	64,766,839
新株予約権の行使時の払込金額(円) (注)2	386
新株予約権の行使期間 (注)3	平成25年10月17日～平成35年9月19日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) (注)4	発行価格 386 資本組入額 193
新株予約権の行使の条件	各本新株予約権の一部行使はできない。
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権は、転換社債型新株予約権付社債に付されたものであり、本社債からの分離譲渡はできない。
代用払込みに関する事項	各本新株予約権の行使に際しては、当該本新株予約権に係る本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、その額面金額と同額とする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5

- (注)1 本新株予約権の目的である株式の種類及び内容は当社普通株式(単元株式数1,000株)とし、その行使により当社が当社普通株式を交付する数は、行使請求に係る本社債の額面金額の総額を下記(注)2記載の転換価額で除した数とする。但し、行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。
- 2 (1)各本新株予約権の行使に際しては、当該本新株予約権に係る本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、その額面金額と同額とする。
- (2)本新株予約権の行使時の払込金額(以下、転換価額という。)は386円とする。
- (3)転換価額は、本新株予約権付社債の発行後、当社が当社普通株式の時価を下回る払込金額で当社普通株式を発行し又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合、下記の算式により調整される。なお、下記の算式において、「既発行株式数」は当社の発行済普通株式(当社が保有するものを除く。)の総数をいう。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{発行又は処分株式数} \times 1 \text{株当たりの払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{発行又は処分株式数}}$$

また、転換価額は、当社普通株式の分割又は併合、一定の剰余金の配当、当社普通株式の時価を下回る価額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されるものを含む。)の発行が行われる場合その他一定の事由が生じた場合にも適宜調整される。さらに、転換価額は、組織再編等による繰上償還、上場廃止等による繰上償還又はスクイズアウトによる繰上償還がされることとなる場合、満期償還日までの残存日数に応じて減額される。

- 3 平成25年10月17日から平成35年9月19日まで(行使請求受付場所現地時間)とする。但し、コールオプション条項による繰上償還、クリーンアップ条項による繰上償還、税制変更による繰上償還、組織再編等による繰上償還、上場廃止等による繰上償還、及びスクイズアウトによる繰上償還の場合は、償還日の東京における3営業日前の日まで(但し、税制変更による繰上償還において繰上償還を受けないことが選択された本社債に係る本新株予約権を除く。)、本新株予約権付社債権者の選択による繰上償還がなされる場合は、償還通知書が支払・新株予約権行使請求受付代理人に預託された時まで、本社債の買入消却がなされる場合は、本社債が消却される時まで、また本社債の期限の利益の喪失の場合は、期限の利益の喪失時までとする。上記いずれの場合も、平成35年9月19日(行使請求受付場所現地時間)より後に本新株予約権を行使することはできない。



上記にかかわらず、当社の組織再編等を行うために必要であると当社が合理的に判断した場合、組織再編等の効力発生日の翌日から起算して14日以内に終了する30日以内の当社が指定する期間中、本新株予約権を行使することはできない。また、上記にかかわらず、本新株予約権の行使の効力が発生する日本における暦日(又は当該暦日が東京における営業日でない場合、その東京における翌営業日)が、当社の定める基準日又は社債、株式等の振替に関する法律第151条第1項に関連して株主を確定するために定められたその他の日(以下、当社の定める基準日と併せて「株主確定日」と総称する。)の東京における2営業日前の日(又は当該株主確定日が東京における営業日でない場合、その東京における3営業日前の日)(同日を含む。)から当該株主確定日(又は当該株主確定日が東京における営業日でない場合、その東京における翌営業日)(同日を含む。)までの期間に当たる場合、本新株予約権を行使することはできない。但し、社債、株式等の振替に関する法律に基づく振替制度を通じた新株予約権の行使に係る株式の交付に関する日本法、規制又は慣行が変更された場合、当社は、本段落による本新株予約権を行使することができる期間の制限を、当該変更を反映するために修正することができる。

- 4 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。
- 5 (1)組織再編等が生じた場合、当社は、承継会社等(以下に定義する。)をして、本新株予約権付社債の要項に従って、本新株予約権付社債の主債務者としての地位を承継させ、かつ、本新株予約権に代わる新たな新株予約権を交付させるよう最善の努力をするものとする。但し、かかる承継及び交付については、( )その時点で適用のある法律上実行可能であり、( )そのための仕組みが既に構築されているか又は構築可能であり、かつ、( )当社又は承継会社等が、当該組織再編等の全体から見て不合理な(当社がこれを判断する。)費用(租税を含む。)を負担せずに、それを実行することが可能であることを前提条件とする。かかる場合、当社は、また、承継会社等が当該組織再編等の効力発生日において日本の上場会社であるよう最善の努力をするものとする。本(1)に記載の当社の努力義務は、当社が受託会社に対して、承継会社等が、当該組織再編等の効力発生日において、理由の如何を問わず、日本の上場会社であることを当社は予想していない旨の証明書を交付する場合、適用されない。  
「承継会社等」とは、組織再編等における相手方であって、本新株予約権付社債及び/又は本新株予約権に係る当社の義務を引き受ける会社をいう。
- (2)上記(1)の定めに従って交付される承継会社等の新株予約権の内容は下記のとおりとする。

新株予約権の数

当該組織再編等の効力発生日の直前において残存する本新株予約権付社債に係る本新株予約権の数と同一の数とする。

新株予約権の目的である株式の種類

承継会社等の普通株式とする。

新株予約権の目的である株式の数

承継会社等の新株予約権の行使により交付される承継会社等の普通株式の数は、当該組織再編等の条件等を勘案のうえ、本新株予約権付社債の要項を参照して決定するほか、下記( )又は( )に従う。

なお、転換価額は上記2(3)と同様の調整に服する。

( )合併、株式交換又は株式移転の場合、当該組織再編等の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に得られる数の当社普通株式の保有者が当該組織再編等において受領する承継会社等の普通株式の数を、当該組織再編等の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに受領できるように、転換価額を定める。当該組織再編等に際して承継会社等の普通株式以外の証券又はその他の財産が交付される場合は、当該証券又は財産の価値を承継会社等の普通株式の時価で除して得られる数に等しい承継会社等の普通株式の数を併せて受領できるようにする。

( )上記以外の組織再編等の場合、当該組織再編等の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に本新株予約権付社債権者が得られるのと同等の経済的利益を、当該組織再編等の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに受領できるように、転換価額を定める。

新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額

承継会社等の新株予約権の行使に際しては、承継された本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、承継された本社債の額面金額と同額とする。

新株予約権を行使することができる期間

当該組織再編等の効力発生日(場合によりその14日後以内の日)から、上記3に定める本新株予約権の行使期間の満了日までとする。

その他の新株予約権の行使の条件

承継会社等の各新株予約権の一部行使はできないものとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金

承継会社等の新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。

組織再編等が生じた場合

承継会社等について組織再編等が生じた場合にも、本新株予約権付社債と同様の取り扱いを行う。

その他

承継会社等の新株予約権の行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行わない。承継会社等の新株予約権は承継された本社債と分離して譲渡できない。

- (3) 当社は、上記(1)の定めに従い本社債及び信託証書に基づく当社の義務を承継会社等に引き受け又は承継させる場合、本新株予約権付社債の要項に定める一定の場合には保証を付すほか、本新株予約権付社債の要項に従う。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年12月31日		881,584,825		84,185		16,673

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず記載することができないので、直前の基準日である平成25年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,369,000		
	(相互保有株式) 普通株式 20,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 871,052,000	871,052	
単元未満株式	普通株式 8,143,825		
発行済株式総数	881,584,825		
総株主の議決権		871,052	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ2,000株(議決権2個)及び690株含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己保有株式及び相互保有株式が次のとおり含まれております。

自己保有株式	名古屋鉄道株式会社	526株
相互保有株式	鳩タクシー株式会社	300株

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 名古屋鉄道株式会社	名古屋市中村区名駅 一丁目2番4号	2,369,000		2,369,000	0.26
(相互保有株式) 鳩タクシー株式会社	岐阜県高山市名田町 五丁目95番16号	20,000		20,000	0.00
計		2,389,000		2,389,000	0.27

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役副社長 (代表取締役) (グループ統括本部長)	取締役副社長 (代表取締役) (グループ統括本部長兼 病院事務部長)	松林 孝美	平成25年7月1日
専務取締役 (代表取締役) (不動産事業本部長)	専務取締役 (代表取締役) (不動産事業本部長兼 人事部長)	安藤 隆司	平成25年7月1日
専務取締役 (代表取締役) (鉄道事業本部長)	専務取締役 (代表取締役) (鉄道事業本部長兼 営業部長)	大西 哲郎	平成25年7月1日
常務取締役 (広報部長兼 総務部長)	常務取締役 (秘書広報部長兼 総務部長)	柴田 浩	平成25年7月1日
取締役 (事業推進部長)	取締役	岩瀬 正明	平成25年7月1日
取締役 (事業企画部予算管理担当部長兼 財団担当部長)	取締役 (事業企画部予算管理担当部長)	舟橋 雅也	平成25年7月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,420	20,734
受取手形及び売掛金	59,922	54,892
短期貸付金	7,508	6,817
分譲土地建物	56,221	69,079
商品及び製品	7,319	8,077
仕掛品	391	1,119
原材料及び貯蔵品	3,956	4,457
繰延税金資産	5,805	4,036
その他	12,391	18,494
貸倒引当金	262	294
流動資産合計	163,674	187,414
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	322,812	313,941
機械装置及び運搬具（純額）	63,890	61,561
土地	367,197	366,482
リース資産（純額）	8,961	8,303
建設仮勘定	50,326	55,078
その他（純額）	7,805	7,153
有形固定資産合計	820,994	812,520
無形固定資産		
施設利用権	7,099	6,245
のれん	278	398
リース資産	1,247	909
その他	3,277	3,813
無形固定資産合計	11,902	11,366
投資その他の資産		
投資有価証券	78,783	87,592
長期貸付金	302	280
繰延税金資産	12,807	9,707
その他	16,358	15,946
貸倒引当金	1,847	1,831
投資その他の資産合計	106,404	111,695
固定資産合計	939,301	935,582
資産合計	1,102,975	1,122,996

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	67,390	57,900
短期借入金	135,133	149,676
1年内償還予定の社債	-	10,000
リース債務	3,829	3,492
未払法人税等	3,651	3,098
繰延税金負債	1	2
従業員預り金	18,537	18,884
賞与引当金	5,247	1,652
整理損失引当金	69	204
商品券等引換引当金	1,761	1,781
その他	88,065	96,958
流動負債合計	323,689	343,650
<b>固定負債</b>		
社債	119,995	134,989
長期借入金	294,140	258,573
リース債務	6,919	6,083
繰延税金負債	3,696	5,708
再評価に係る繰延税金負債	63,971	62,830
退職給付引当金	28,904	28,442
役員退職慰労引当金	1,726	1,557
整理損失引当金	3,828	7,105
商品券等引換引当金	108	88
その他	20,403	20,496
固定負債合計	543,695	525,877
負債合計	867,385	869,528
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	84,185	84,185
資本剰余金	18,428	18,428
利益剰余金	43,394	53,907
自己株式	756	780
株主資本合計	145,251	155,741
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	9,387	15,255
繰延ヘッジ損益	10	11
土地再評価差額金	63,139	64,051
為替換算調整勘定	52	38
その他の包括利益累計額合計	72,485	79,280
少数株主持分	17,852	18,446
純資産合計	235,589	253,468
負債純資産合計	1,102,975	1,122,996

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益	446,424	437,833
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	383,042	373,840
販売費及び一般管理費	36,703	36,393
営業費合計	419,746	410,233
営業利益	26,678	27,599
営業外収益		
受取利息	73	47
受取配当金	1,027	1,186
持分法による投資利益	818	1,711
雑収入	1,714	1,262
営業外収益合計	3,633	4,207
営業外費用		
支払利息	5,898	5,212
雑支出	232	363
営業外費用合計	6,130	5,576
経常利益	24,181	26,230
特別利益		
固定資産売却益	1,041	1,095
工事負担金等受入額	481	343
投資有価証券売却益	186	233
その他	321	416
特別利益合計	2,030	2,089
特別損失		
固定資産売却損	1,291	226
減損損失	4,350	1,258
固定資産除却損	446	123
工事負担金等圧縮額	425	311
投資有価証券評価損	502	236
整理損失引当金繰入額	957	3,546
その他	675	298
特別損失合計	8,650	6,000
税金等調整前四半期純利益	17,562	22,319
法人税、住民税及び事業税	4,197	5,080
法人税等調整額	2,030	3,493
法人税等合計	6,228	8,573
少数株主損益調整前四半期純利益	11,334	13,746
少数株主利益	1,036	698
四半期純利益	10,297	13,047



【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	11,334	13,746
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,495	5,621
土地再評価差額金	989	1,017
為替換算調整勘定	0	15
持分法適用会社に対する持分相当額	54	435
その他の包括利益合計	1,560	7,089
四半期包括利益	9,773	20,835
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,712	19,948
少数株主に係る四半期包括利益	1,061	886

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
鉄軌道事業固定資産の 取得原価から直接減額 された工事負担金等累計額	137,970百万円	138,217百万円

2 保証債務

連結会社以外の会社等の金融機関等からの借入等に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
中部国際空港連絡鉄道(株)	966百万円	714百万円
(株)武蔵開発ほか	164	200
合計	1,130	914

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	29,580百万円	28,819百万円
のれんの償却額	112	75
負ののれんの償却額	17	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,758	2.00	平成24年3月31日	平成24年6月28日

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,637	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月27日

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	交通事業	運送事業	不動産 事業	レジャー ・サービ ス事業	流通事業	その他の 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益計 算書 計上額 (注)3
営業収益									
外部顧客に対 する営業収益	117,412	101,864	55,335	39,228	96,127	36,455	446,424		446,424
セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	1,751	339	5,026	659	9,938	13,114	30,830	30,830	
計	119,164	102,203	60,361	39,888	106,066	49,569	477,254	30,830	446,424
セグメント利益	13,003	3,865	5,738	856	1,194	1,512	26,170	507	26,678

(注)1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、以下の事業セグメントを含んでおります。

設備の保守・整備、航空事業、ビル管理メンテナンス業、保険代理店業等

2 セグメント利益の調整額507百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	交通事業	運送事業	不動産 事業	レジャー ・サービ ス事業	流通事業	その他の 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益計 算書 計上額 (注)3
営業収益									
外部顧客に 対する営業収益	118,193	102,086	39,677	40,225	99,705	37,945	437,833		437,833
セグメント間 の内部営業収 益又は振替高	1,785	341	4,944	1,096	10,740	13,031	31,939	31,939	
計	119,978	102,427	44,622	41,321	110,446	50,977	469,772	31,939	437,833
セグメント利益	14,065	3,679	4,216	1,510	1,415	2,337	27,225	374	27,599

(注)1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、以下の事業セグメントを含んでおります。

設備の保守・整備、航空事業、ビル管理メンテナンス業、保険代理店業等

2 セグメント利益の調整額374百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	11.71円	14.84円
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	10,297	13,047
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	10,297	13,047
普通株式の期中平均株式数(株)	879,165,783	879,105,111
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	11.23円	13.89円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円) (うち支払利息(税額相当額控除後))	23 (23)	23 (23)
普通株式増加数(株)	40,047,049	61,980,658
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月6日

名古屋鉄道株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 横 井 康

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 本 千 佳

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村 井 達 久

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている名古屋鉄道株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、名古屋鉄道株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。